

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホームゆりかもめ	ユニット名	ゆりユニット
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和6年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である病院と連携し、利用者様の心身の状態をケア記録や会話、入浴時、バイタルチェック等から観察し、受診が必要な時はその都度医療に繋いでいる。日常生活の中に在宅と同じ様な、野菜の皮剥きや洗濯物干し、畳み、茶碗洗い等のいろいろな作業をしていただき、施設の中で利用者様の役割をつくり、利用者様がここに居てもいいんだと思っていいただける様な、安心して過ごしていただける施設づくりをしている。1ユニットには畑を作り、土を耕す、管理し収穫し、その野菜を食事に使用する等している。職員の教育に関しても、認知症、高齢者虐待、身体拘束、サービス向上の研修や勉強会に積極的に参加させている。また、障害者雇用も受けて入れており、障害者の方がもっと働きやすい職場を増やせる様に職員の教育を取り入れている。地域貢献としては利用者様と一緒に近くのスーパーを利用し買い物支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム(3ユニット)は、川辺りに立地し近隣には多数の商業施設があり、利便性に恵まれた環境にある。利用者は地域の方が多く各ユニット間を自由に行き来することにより知人や友人に出会える場になっている。特に運営推進委員会に於いては地域民生委員3名の参加があり助言や支援を受け地域密着型施設としての役割を担っている。又、医療と連携して運営されており急変時や重度化には適切な対応が期待できるため利用者・家族ともに安心して生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある			○	3. たまに
		○	4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			○	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しながら1人1人の利用者様のペースに寄り添い、申し送りやノート活用し職員間で情報共有している。	3ユニット共に同じ理念の下、職員は利用者や家族がホームを利用して本当に良かったと思ってもらえるように各ユニットそれぞれ目標を決めてケアの実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議も始まる様になり、その会議の中で、民生委員や役場の方々と、やりとりや交流を図っている。	近くのスーパーへの買い物や川辺りの散歩又ゴミ出しなど職員と一緒に知り人や友人、地域の方々と出会う機会を支援し、地域との関わりを持つ努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で施設の取り組みや現状を報告しており、毎月施設の行事等やお誕生者を掲載した新聞を作成し請求等と一緒に郵送している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で現状報告や自施設で取り組んでいる事を説明し、意見を求め良い事はケア等に反映させている。	ホームの現状報告や利用者の状況を報告している。その中で意見や提案を受けサービス向上に繋げている。最近の会議で傾聴ボランティア訪問の提案を受け検討中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々、県、町、社協等の関連機関と連絡をとりながら、情報交換し協力体制を築ける様に取り組んでいる。	運営推進会議以外でも日常生活において必要に応じ相談できる良好な協力関係を築いている。又、行政に於いても事例等相談を受ける時もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月毎に身体拘束等適正化委員会を実施し、玄関や居室等の施錠をしないケアの実施に取り組んでいる。	身体拘束等適正委員会での議事録は全職員へ周知する仕組みとなっており、身体拘束の弊害について正しく理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の院内研修などに参加し、虐待を理解し、利用者が安心して生活出来る様に日々努力している。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の制度についての勉強会を開催してもらい、知識や理解を深めたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、十分な説明を行い利用者様やご家族様に納得していただいて、入居していただいている。又、契約の改定時は、その都度ご家族様に変更内容を文章化し送付、捺印、署名後返信していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入退者様やご家族様のご要望、ご意見があれば、施設全体で話しあい、情報の共有や職員に周知し、運営に活かしている。		面会や電話対応時、意見や要望を引き出す努力をしている。出された意見や要望は運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に各ユニットでカンファレンスを行い、そこで出た意見を月1回の会議で検討し、会議議事録を回覧し情報を共有している。		毎月開催される会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。提案された意見や要望は反映されているところもあるが十分に把握しきれない可能性もある。	今後は十分に把握しきれない意見や要望を洗い直し検討し、職員に周知し生き活きと働き続けられる環境整備の工夫を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長年勤務している職員と新人職員との給料の差がなく、やり甲斐や向上心は消え、日々業務を淡々と遂行している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば職員1人1人が院内研修や院外研修に参加し日々の業務に活かしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院外研修に積極的に参加し、同業者との交流や意見交換をし、それを自施設に持ち帰り業務に取り組んでいる。			

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や困り事があれば傾聴し、職員間で検討し情報共有し入居者様が少しでも安心して過ごせる様に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご不安やお困り事は管理者や職員、ケアマネ等が傾聴し、申し送りで全職員に周知し、ケアに繋げ信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様が必要とされている支援を見極め、ケアマネを中心にユニットで検討し職員間で統一した対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	細やかなコミュニケーションを心掛けている。相手の趣味に合わせた話題等で会話。話を傾聴し信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際に施設での様子をお話したり、またご家族様の要望など聞き、よりよい信頼関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人に連絡の要望の対応や、職員同行による外出、買物、行きつけの美容室にご家族様により外出支援をお願いする等の対応し、より良い関係を築いている。	利用者は地域の方々であり、買い物や散歩を支援し知人や友人に出会う機会を作っている。外泊も取り入れ今正月に向けて外泊の予定の利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等の参加や、利用者様同士の会話の機会を出来るだけ設け、人間関係づくりができる様に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者対応にて、必要に応じて相談、支援が出来る様努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議やコミュニケーションを通じて、本人の希望や意向を聞きその都度対応している。		散歩や買い物の要望があれば利便性の良さを生かし対応している。意思疎通困難な方には仕草や声掛けで汲み取り把握している。外泊され墓参りされた事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護サマリーなどを通して適切なケアが実践できる様、全職員把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで生活していただける様に、その日の心身の状態を見ながら、利用者様の意思決定を尊重しながら出来る支援を行う様に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様について、ご家族様の意向や、担当職員、ユニット職員の意見を聞き、現在の状態を把握しその旨を反映した介護計画を作成している。		本人や家族の意向・要望を採り入れ又、日々の記録や職員や関係者の意見やアイデアを反映した現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や職員間の情報を基に問題点を検討し、実践し、再度問題点を提示、再度検討していき、介護計画に繋げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の残存機能を低下させる事なく、出来る事はやっていただく様にしている。自施設が自分の家と思っていいただける様にご自分のペースで生活してもらえる様に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様と近くのスーパーに買い物に出掛けたり、自施設が作っている畑作業をしたり、また出来た野菜を収穫しその野菜を食事に利用したりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設は母体の病院と併設しており、入所時の契約の時に医療連携協力機関は母体の病院とご説明させていただいている。ご家族様にもその旨を了承してもらっている。		ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医とし定期的な受診が行われている。いつでも(特に夜間等)相談できる良好な関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の業務内で心身の状態の変化や急変時は、常に職場内の看護師に報告し、適切な指示、受診に繋げる様に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、管理者は常に病院と情報交換している。また、利用者様が入院した場合は、情報の共有を行い、早期に退院できる様な関係者との連携に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約時にグループホームのできる医療をご家族様に説明し、承諾していただき、重度化した場合は協力医療機関に入院と説明している。		重要事項説明書で重度化や終末期について説明を行っている。管理者は、今後は終末期に於いて職員の教育や研修を取り入れ体制を整え対応したい方針を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の場合は看護師に連絡しドクターの指示に従って応急処置等を行いながら病院と連携し対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに沿って避難出来る方法は常に訓練を行い全職員は把握しているが、地域との協力体制はあまり築けていない。		3か月に1回夜間想定避難訓練を実施し、災害マニュアルも作成している。食料や飲料水などの物品等も準備している。母体である医療機関とは協力体制にある。	

自己	外部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の個性を尊重しながら、その方にあった言葉掛けをし対応している。	馴れ合いにならないように、特に声掛けには留意している。誇りやプライバシーを損ねないように職員間でお互いに注意しあい改善に向けてホーム全体で取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の会話の中で利用者様の希望される事を聞き、自己決定が出来る様な声掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の状態を観察し、その方のペースで対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活にメリハリをつけ、日中は日常着、夜間は寝まきに更衣を促している。衣類も自己決定を尊重している。洗面等も声掛けしされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に食事の皮むきや、食器洗い、テーブル拭きや掃除等の出来る事をお願いしている。	漁港が近く、魚の開きの干し物をリクエストされる時もあり対応している。本日昼食のシチューのメニューでは、パンかご飯かの選択制にし食事が楽しいものになるように工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の栄養状態や体調に合わせて、少しでも食べていただける様な物を常に考え、1日必要な水分量も考えて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日3回食後に口腔ケアの声掛け、実施しているが、拒否される方もいる。歯磨きが困難な方は洗口腔等の使用を促し実施している。			

自己	外部	項 目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の1人1人の排泄パターンをチェック表にて把握し、自立に向けた支援を行っている。		身体機能に応じ介助や見守りを行いトイレでの自立に向けた支援をしている。排泄ケア商品に於いても利用者・家族の経済的負担を考慮し購入先を検討する時がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、数日排便がない場合は自然排便を促す為、牛乳等を飲んでいただくか、それでも排便がない場合は、下剤を使用し排便コントロールをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間が決まっている為、個人の希望に添った入浴は出来ていない。		日曜日以外毎日入浴は実施しており、入浴拒否される方には無理強いせずその人に合わせた支援をしている。入浴対応時の職員の性別や使用するシャンプーに於いても一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも利用者様が居室で休める様な体制をとっている。晴れた日は定期的に寝具を洗濯し、気持ち良く休める様に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情やお薬手帳確認し、服薬支援と症状の変化に注意をはらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事をやっていただき、自信をもっていただく。気分転換に外気浴にお誘いするなどの支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望によって外出支援や、家族の協力を得て外食等をされている。また、月毎に行事を計画し実行している。		ホームの立地の利便性から買い物や川辺りの散歩を日常的に支援している。最近では利用者の馴染み深い日向灘を一望できる牧山へのドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	ゆりユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本施設で預かっており、必要、要望に応じて、職員が買い物に行ったり、買い物に行ける方は職員同行で買い物支援をしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望により電話は自由に掛けてもらっている。手紙のやりとりは殆どできない方が多い。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の居間や玄関等には季節を感じていただく為に、職員が装飾を手作りで作成し飾っている。月毎に変えている。		各ユニットは掃除が行き届き清潔に保たれている。日向ぼっこや休憩ができるように廊下には椅子を置き、壁には利用者と職員が作成した季節感のある作品が飾られている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各室1人部屋であり、居間では、他者同士に会話や、作業やゲーム等が出来る様な空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に在宅で使用されていた物を持って来ていただき、居室で使用してもらって、家に居る様な気持ちで過ごしてもらっている。		からくりタンスやパソコン・テレビなどが持ち込まれ使いやすいように工夫して設置されている。利用者それぞれ馴染みの物を生かした個性あふれる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	作業等をやっていただき、出来る事、分かる事を見極め、見守りの中で出来る事を安全にやっていただいている。			